

世界で初めて劇場一般公開したブータンドキュメンタリー。

全国ロードショーを終えて AMAZON PRIME (C) にてホームシアター向けレンタル & セルがスタートしました。

この度、昨年8月18日よりポレポレ東中野ほか全国ロードショーしたドキュメンタリー映画『ゲンボとタシの夢見るブータン』が、ホームシアター（スマートフォン、タブレット、PC 含む）向けの配信がスタートしました。映画は急速な近代化に直面するブータンの中部ブムタンを舞台に、先祖代々受け継いできた寺院を持つ家族の二世帯に渡って異なる伝統に対する価値を描きます。未来に不安を感じる少年少女の葛藤や、子供の将来を按じる親の姿は、ブータンという特殊な国のことだけでなく、どの世界の家族にも通じる普遍的な家族の葛藤となります。世界で初めて劇場一般公開されたブータン・ドキュメンタリーを、是非この機会にご覧ください。



AMAZON PRIME にて配信中 <https://amzn.to/2xaDVWt>

養老孟司先生より、映画のコメントが届いています。

ネットを典型として変わりゆく社会、その中での父と子、性同一性、個人の選択、こうした人生の普遍的な問題を、ブータンの風土を背景に上手に描いています。強いて結論を出さない、とても気持ちのいい映画です。

日本人が百年以上前に、良かれ悪しかれ通過した時代を、アジアの国々がいま通っているという気がします。ではわれわれは真摯に過去に向き合ってきたか。それをあらためて考えさせる作品でもあります。

養老孟司（解剖学者／東京大学名誉教授）

【ストーリー】

子供たちはどのような未来を描くのだろうか

ブータンの小さな村に暮らす長男ゲンボ（16歳）は、家族が代々受け継いできた寺院を引き継ぐために学校を辞め、戒律の厳しい僧院学校に行くことについて思い悩む。自らを男の子だと思い、ブータン初のサッカー代表チームに入ることを夢見る妹のタシ（15歳）は、自分の唯一の理解者である兄に、遠く離れた僧院学校に行かないでほしいと願う。父は、子供たちが将来苦勞することなく暮らせることを願い、ゲンボには出家し仏教の教えを守ることの大切さを説き、タシには女の子らしく生きる努力をすることを諭す。思春期の子供たちは自分らしい生き方を模索するが、それが何かはまだわからない。急速な近代化の波が押し寄せるブータンで、子供たちの想いと、親の願いは交差し、静かに衝突する――

“幸福の国ブータン”のゆくえは

映画の舞台はブータンの巡礼の地、中部ブムタン。家族が代々受け継いできた古刹チャカル・ラカンには、1000年以上の歴史を持つ重要な寺院のひとつである。GNH（国民総幸福量）を提唱し、それを目標に建国を進めてきたブータンの人々は、急速な近代化に伴い、多様な価値観を持つようになる。伝統社会の急激な変化に戸惑いながらも決断せねばならない最後の仏教王国ブータン。ゲンボとタシの家族が直面している寺院の継承問題は、ブータンで暮らす人々だけの問題でなく、どの世界にもある家族の葛藤でもある。

世界で初めて劇場公開されるブータン人作家によるドキュメンタリー

監督のアルム・バッタライ（ブータン）とドロッチャ・ズルポー（ハンガリー）は、若手ドキュメンタリー制作者育成プログラム（ドック・ノマッド）で出会い、世界7つのドキュメンタリー・ピッチング・イベントに参加し、国をまたがる6つの財団から資金を獲得して、国際共同製作の枠組みで本作品を完成させる。文化背景の異なる若手作家が手を取り合い、世界を旅し、世界中の支援者に支えられて完成した、友好と情熱に満ちた“クロッシング・ボーダー”な映画。

<クレジット>

監督 アルム・バッタライ、ドロッチャ・ズルポー

2017 | ブータン、ハンガリー映画 | ドキュメンタリー | ソンカ語 | 74分 | 英題 The Next Guardian

後援：ブータン王国名誉総領事館／ブータン政府観光局／駐日ハンガリー大使館

協力：Tokyo Docs／日本ブータン友好協会／日本ブータン研究所／京都大学ブータン友好プログラム

字幕：吉川美奈子 | 字幕協力：磯真理子 | 字幕監修：熊谷誠慈 | 配給：サニーフィルム



AMAZON PRIMEにて絶賛配信中!!

上映会についての問い合わせ：サニーフィルム 有田 浩介 090-6112-9090 | arita.kohsuke@gmail.com